

Ⅰ. 少年サポートセンターひろしま 平成27年4月1日に設置

目的・取組概要

広島市と広島県警察が、緊密な連携により、非行防止の総合的かつ効果的な施策を推進するため、「少年サポートセンターひろしま」を核として、**非行防止から立ち直りまでの一貫した支援等**に取り組む。

少年相談



居場所づくり (少年サポートルーム)



生徒指導上の課題を抱える中学校等への支援



街頭補導活動



非行防止セミナー



ネットパトロール

※広島市単独事業



1つの部屋2つの組織
全国初!

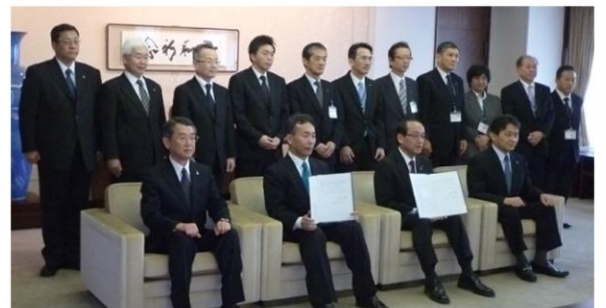
体制

○広島市(13名)

非行防止・自立支援担当
(うち市教委との併任9名)

○広島県警察(6名)

警察少年育成官5名、
警察官1名



広島県警察
Hiroshima Prefectural Police



広島市
Hiroshima City

2. これまでの主な取組

● 少年相談の実施

少年や保護者などから電話や面会等により、交友関係のトラブルや金品持ち出し、深夜徘徊などの少年非行に関する相談や犯罪被害などの相談を受ける。相談事案の事件性や非行の程度に応じ、市と県警察が連携して対応している。

【少年相談の受理状況】 (件)

年 度	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
相談受理件数	162	247	199	188	174	156	186	341	336	306

● 少年サポートルームの運営

補導された少年等を対象に、社会の一員としてルールを守れるよう成長を促すとともに、自己肯定感の向上を図るために、対人スキルが未熟な少年のコミュニケーション能力の向上につながるプログラムの実施や、陶芸、スポーツ・レクリエーションなどの体験活動を実施し、立ち直り支援に向けて取り組んでいる。

【少年サポートルームの実施状況】 (回、人)

年 度	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
実施回数	43	54	44	45	41	24	17	44	47	45
延べ参加人数	387	368	420	387	262	44	49	148	236	253

● 学校支援の実施

教育委員会の依頼に基づき、生徒指導上の課題を抱える中学校等に対し、警察OB職員である自立支援相談員をスクールサポーターとして派遣し、課題のある生徒との関係を築きながら問題行動等への対応に当たることにより、教職員を支援している。

【スクールサポーターの派遣状況】 (校、回)

年 度	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
派遣校数	5	3	4	3	4	3	3	2	2	2
派遣回数	302	243	328	349	326	420	387	391	399	400

● 街頭補導活動の実施

不良行為等の早期発見・早期指導により少年の非行防止に取り組むため、青少年指導員や学校、交番・駐在所などの関係機関と情報共有しながら、少年たちが集まりやすい場所を見回り、喫煙、怠学、夜遊びなどを行っている少年に声をかけ、街頭補導活動を実施している。

特に、フラワーフェスティバル、ゆかたできん祭、えびす講といった祭礼などにおいては、街頭補導活動の実施体制を強化して取り組んでいる。

また、青少年指導員が月に2回程度、不良行為等の早期発見・早期指導のため、各小学校区内を巡回し、街頭補導活動を実施している。

※ 非行…暴力や万引きなどの法令に触れる行為

※ 不良行為…非行には該当しない、飲酒、喫煙、深夜はいかい等の行為

※ 青少年指導員…小学校区単位を基本として組織している青少年健全育成連絡協議会(134地区)が原則6名ずつを推薦し市長が委嘱(令和6年度は741名に委嘱)

年 度	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
補導人数	1,507	1,892	1,502	1,112	886	581	532	531	519	781

3. 取組事業の有効性

～社会的背景と課題を踏まえて～

広島市域の非行少年の状況

令和4年から増加

(1) 非行少年の検挙・補導数

年	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
非行少年数	1,243	796	731	627	458	431	369	330	406	453	482

※ 非行少年の検挙例は、刑法犯では窃盗（万引き、オートバイ盗、自転車盗など）、暴行・傷害、器物損壊などである。令和6年は窃盗犯が最多で全体の54.3%を占め、続いて多いのは暴行・傷害などの粗暴犯で25.6%を占める。

非行少年の内訳

中学生が過半数！

非行少年全体のうち、令和6年は、高校生が前年対比23人（16.1%）減少し、中学生以下が前年対比34人（15.8%）増加し、中学生以下が249人（51.7%）と全体の過半数を占めている。

区 分	総 数	小学生以下	中学生	触法少年	高校生	大学生等	有 職	無 職
令 和 6 年	482	101	148	88	120	23	61	29
構成比	100.0%	21.0%	30.7%	18.3%	24.9%	4.8%	12.7%	6.0%
令 和 5 年	453	100	115	66	143	29	44	22
構成比	100.0%	22.1%	25.4%	14.6%	31.6%	6.4%	9.7%	4.9%
増 数	29	1	33	22	▲23	▲6	17	7
減 率	6.4%	1.0%	28.7%	33.3%	▲16.1%	▲20.7%	38.6%	31.8%

★「こどもの居場所づくり」事業の有効性

社会的課題に対する一つの有効な非行防止対策⇒「こどもの居場所づくり」

非行防止対策としての位置づけ

- 「少年サポートルーム」のような「こどもの居場所づくり」は、対策の一つとして有効
- 居場所づくりは「課題を抱える少年など、あらゆる少年に効果がある」と考えられている。
- 問題が顕在化する前の非行等の未然防止の観点からも重要

4. 少年サポートルーム

非行少年等に係る居場所づくり

少年サポートルーム 内容

大学生等ボランティアも参加

学習支援

グループワーク

コグニティブトレーニング
(コグトレ)



体験活動

- ・ 文化活動
- ・ スポーツ活動
- ・ 社会奉仕活動 など



■対象: 非行や犯罪被害からの立ち直り支援を必要としている少年

■目的: コミュニケーション能力を向上させ、ルールを守る社会の一員としての成長を促す

■内容: ボランティアの協力を得ながら、学習支援や体験活動を行う
毎週木曜日【16:30~18:30】



MENU



(例: 令和6年度から抜粋)

回	実施日	メニュー	内容
1	4月6日	コグトレ	楽しみながら見る力 考える力をつけよう!
2	4月13日	わくわく☆スタディ	サイコロトーク
3	4月20日	消しゴムハンコづくり	世界に1つだけの ハンコを作ろう!
4	4月27日	わくわく☆スタディ	カラーージュを作ろう!
5	5月11日	フラワーアレンジメント	いつも頑張っている自分に お花を贈ろう!
6	5月25日	わくわく☆スタディ	スキスキ・ランド ~好きを探そう!~
7	6月1日	楽しいものづくり①	子どもも大人も楽しめる ものづくり!
8	6月8日	わくわく☆スタディ	性格診断で自分発見!
9	6月15日	 川柳教室	五・七・五に想いを込めて
10	6月22日	わくわく☆スタディ	わたしの長所みつけた!
11	6月29日	楽しいものづくり②	子どもも大人も楽しめる ものづくり!

回	実施日	メニュー	内容
12	7月6日	わくわく☆スタディ	「わたし辞典」を作ろう!
13	7月13日	陶芸教室	江田島焼きづくりに チャレンジ!
14	7月20日	わくわく☆スタディ	何がいけないの?

※内容は予告なく変更する場合があります。

何かみつけてみませんか?

少年サポートセンターでは、
みんなが心を開いて話したり
楽しんだりする場所をつくりました。

今とはちょっと違うあなたが
ほほえんでいるかもしれません。

いろんな気持ちをもって
何かをみつけにきませんか。



5. 少年の成長記録(令和6年度)

サポートルームでこんなことしたよ(少年たちの声)

みんなの思い出

火起こしや消しゴムハンコ、ねんどでシーサーづくり(Cさん)
サポートルームで皆さんとたくさんしゃべったこと(Cさん)
体育館に行ってビーチバレーをしたこと(Dさん)
モルックで1位になったこと(Eさん)



がんばったこと・できるようになったこと

ミニゴトレに挑戦し、考える力を育てた(Cさん)
コミュニケーション力がアップ!(Cさん)
料理がもっと好きになった!(Dさん)
マジックのリング通しに挑戦(Eさん)
クレープを巻くのをがんばった(Fさん)

これからの意気込み

「世界中どこでも誰とでも話せるようになりたい」(Cさん)
空手の試合に真剣に臨む!(Dさん)
モルックの1位はゆずらない!(Eさん)
やさしい言葉を大切にする(Fさん)

みんなの成長

去年より人と話せるようになった!(Cさん)
礼儀正しくできるようになった!(Dさん)
「いっぱいできるようになった!」という実感(Eさん)
「悪口をしない」と決意した心の成長(Fさん)

AさんとBさんの成長について



小6女兒
Aさん

参加当初は、自分に自信がなく、人と関わるのが苦手な様子でした。

サポートルームでは、ボランティアさんをはじめ多くの大人の人たちと少しずつ関係性を作ることができました。そして、本来Aさんが持っている優しさを出せるようになり、自信をつけることができました。

安心して人と関われるようになったことで、「学校に行くのが楽しくなり、好きな教科が増えて、勉強が好きになった。」と言ってくれました。



小6女兒
Bさん

人と関わりたくても、うまくいかないことがあり、消極的な面が見られたBさん。サポートルームでは、得意のスポーツやモノづくりなどで活躍してくれました。

ボランティアさんなど周囲のサポートで、苦手な事にも挑戦できるようになり、**何事にも自信を持って取り組めるようになりました。**

サポートルームを卒業するころ、「以前は、諦めるのが早くて、すぐに諦めていたけど、諦めなくなった。」と、話すBさんの姿が、印象的でした。

担当者より

2人に共通して言えることは、サポートルームで、他の参加少年やボランティアさんと関わり、自然な流れの中で、本来持っている**良い面を伸ばすことができた**ところです。

参加当初は、自信のなさが見られましたが、周りの人に褒めてもらったり、励ましてもらったり、頼りにしてもらったりすることで、**大きな成長**を遂げました。

こうした2人の成長は、**周りの人の成長を促すことにつながりました。**

また、**ボランティアさんをはじめ、みんなで関わられたことが**、担当者としてとても幸せでした。

2人の笑顔が増えたことが、サポートルームの意義を物語っていると思います。

6. ボランティアのまなざし

～子どもたちと共に歩む～

安心できる居場所で、子どもたちと共に育ちあう時間

① 居場所としてのサポートルーム



「ここは、子どもたちの居場所になっている」

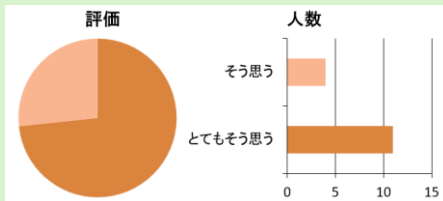
ボランティア参加者15名中15名が肯定的に回答!

「家族でも学校でもない、安心できる第三の場所」

「優しく肯定してくれる大人の存在が、自信につながる」



✓ R6ボランティアのアンケート結果:



少年サポートルームは参加少年にとって良い居場所になっていると思いますか。

No	回答	回答数	割合
1	とても思う	11	73.4%
2	そう思う	4	26.6%
3	あまり思わない	0	0.0%
4	思わない	0	0.0%
合計		15	100.0%

💡 コメント

- ・ 否定されない安心感がある
- ・ 自然体で過ごせる場所
- ・ 自分らしくいられる空間がここにある

② 子どもたちの変化

「人見知りだった子が積極的に発言」

「自分の意見を堂々と伝える姿」

✓ R6ボランティアのアンケート結果:

93.3%が「変化を感じる」と回答

活動を通して少年の様子に変化があると感じますか。

No	回答	回答数	割合
1	とてもある	6	40%
2	ある	8	53.3%
3	あまりない	1	6.7%
4	ない	0	0%
合計		15	100.0%

💡 コメント

- ・ 最初は黙っていた子が、今では笑顔で話しかけてくれる
- ・ 「信頼する技術」を身につけていると感じた
- ・ 他者への気遣いが見られるように

③ ボランティア自身の気づきと成長

「子どもたちから多くを学んだ」
対等に接することの大切さを実感

💡 コメント

- ・ 子どもたちの素直さに心を動かされた
- ・ 関わることで、自分自身も成長できた
- ・ 自分が何かを与えているようで、実は多くをもらっていた

④ 印象に残った活動メニュー

「フラワーアレンジメント」「シーサーづくり」

「コグトレ」「マジック」「夏休みスペシャル」など

- ・ 遊びながら成長できる体験が、子どもたちの笑顔につながった



🌈 未来への提案・やってみたいこと

「もっと文化を紹介したい」
「地域とつながる活動をしたい」
「違いを認め合う体験を広げたい」



メッセージ

活動を通して、子どもたちは少しずつ心を開き、自分らしさを表現し、他者と関わる力を育んでいます。その変化は、ボランティアのまなざしと、安心できる環境があつてこそ。小さな一歩が、大きな成長につながっています。

ボランティア募集

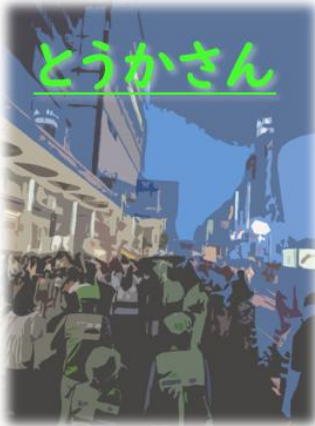
こちら⇒



7. 街頭補導活動(青少年指導員活動を含む)



広島市内で開催
される祭礼



特に、フラワーフェスティバル、ゆかたできん祭、えびす講といった祭礼などにおいては、街頭補導活動の実施体制を強化して取り組んでいる。

祭礼時、**青少年指導員**と合同で、会場周辺や少年が集まりやすい公園等を中心に街頭補導活動を行っています。

職員(主にスクールパートナー)が、広島校外教育連盟職員(校外連)や教員と合同で、大型スーパー等における補導活動を行っています。

※ 青少年指導員...小学校区単位を基本として組織している青少年健全育成連絡協議会(134地区)が原則6名ずつを推薦し市長が委嘱(令和6年度は741名に委嘱)



ワンポイントアドバイス



無理に注意や指導
をしようと思わない
ことが大切だワン

青少年指導員 連携会議(地区代表、関係機関)



【今後の取組】

「地域のこどもは地域で育てる」という考えの下、地域ぐるみで取り組んでいくことが重要であることから、青少年健全育成連絡協議会や「ひろしまLMO」などの地域団体、事業者等との連携を一層強化し、地域の特性や実情に応じた街頭補導活動等の充実を図ります。

少年への声かけのポイント

まずは、挨拶からはじめましょう。そのうえで、身分を明かし、少年を安心させましょう。

少年との関係づくり(顔を覚えてもらったり、名前で呼ばれるなど)を意識し、自然な態度で接しましょう。ユーモアを交えると、親しみを持っていることが伝わります。

少年が複数人いる場合は、こちらも複数人で対応しましょう。そのうえで、行動面(喫煙、深夜徘徊など)で心配なことがあれば、心配している気持ちを伝えましょう。

また、少年が興奮しているときは、冷静な気持ちを保ち、場所を変えたり、話題を逸らしたり、相手のペースに合わせて、声をかけましょう。

別れるときは、「気をつけて帰ってね」、「被害にあわないようにね」など、少年を安心させる言葉をかけましょう。

～青少年指導員のしおりより～